日本獣医動物行動研究会
Japanese Veterinary Society of Animal Behavior
News Letter
ニュースレター
No.25
2024.1 発行
http://vbm.jp

認定医紹介（2023 年合格者）

第11回認定医試験により、新たに認定医となられた３名の先生をご紹介させていただきます
磯見優先生、中野あや先生、室井尚子先生、合格おめでとうございます！

磯見　優 先生

ALLONE 動物病院／いぬ・ねこ行動クリニック Mof

2023 年度に行動診療科認定医となりました、磯見　優（いそみ　ゆう）と申します。自己紹介の機会をいただきましたので、少し自分のことをお話しさせていただきます。

私は宮崎大学を卒業後、小動物臨床を志望して関東の動物病院へ就職しました。一般臨床に従事する中で、多くの飼い主さんが動物との暮らしについての疑問や悩みを持っていることを実感しましたが、自分ではそれに応えることができずに悩みました。私の在学中、動物行動学は未だコアカリキュラムではなく、お恥ずかしながら「行動診療」という言葉さえ知りませんでした。そのため、最初はしつけの本を読む、トレーナーさん向けのセミナーに参加する、など勉強方法を模索しましたが、統一の見解がなく混乱したことを覚えています。そんな中で研究会の存在を知り、緊張しながらも参加させていただきました。

研究会に所属してからはこいぬこねこの教育アドバイザー養成講座でホスピタリティから教えていただいた村田先生や、初学者の私を快く実習させていただいた藤井先生、他にも多くの先生方に支えていただき、楽しく勉強することができました。勉強する中で、「飼い主さんが愛情をもって接していても、動物そのものや接し方について誤解があり、動物との間にすれ違いが生じてしまっている」ことが多く、問題行動の一因となっていると感じました。その誤解を減らすために動物行動学を学び、広めたいという思いがあり、動物病院での勤務に加えて個人での往診中心の行動診療を始め、認定医の取得を目指しました。

認定医の取得までは時間もかかり簡単ではありませんでしたが、一緒に勉強してきた先生方との出会いなど、得るものが多かったと思います。動物行動学は錚々たる参考図書たちの厚さからわかるように、深く学べる分野だと思います。その反面、私たちや家族が行動する動物である以上、関心を持ちやすく、活用できる場面が多い分野でもあると思います。獣医療における多くの専科の中でも、動物行動学は最も開かれた分野であると私は考えています。学ぶ環境や目指す深さは違っても、皆で楽しく学び、広めていけるような研究会を目指して微力ながら尽力させていただきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

中野　あや 先生

動物行動クリニックなかの

中野あや（動物行動クリニックなかの）です、兵庫県神戸市で行動診療科として往診開業しています。過去６回の受験を経て、ようやく認定医としてご挨拶させていただくことができました。

将来の夢は絵本作家になりたい (笑) ！のですが、ここでは自己紹介として認定医になるまでに歩んだ道の話をさせてください。私はもともと人が好きだけど人が怖い（…犬猫にはよく見る性格ですが)、対人不安や不信が強く、動物は心が分かるから安心だと、動物を親友に育ちました。親友ウサギの死をキッカケに獣医を志しましたが、東京大学２年の進路分けでは学力不足で教養学部（生命認知科学科）に進みました。そこで動物行動学や認知科学（脳や心のしくみ）を学び、卒論で過密飼育と独居飼育のマウスの研究をさせてもらいました。このときに広く動物行動学と心理学を学べたことは、大きな財産です。

卒業後、同じ東大の獣医学専修に学士入学し、故 森裕司先生と武内ゆかり先生の『動物行動学』の授業を受け、さらに行動学へのワクワクを強めました。研究室は外科ですが、麻酔、痛み、歩様の観察など、今思えば行動学に繋がる学びも多かったと思います。

神戸の動物病院に就職し、愛犬ネーズとトレーニングを学び、研究会のセミナーで獣医臨床行動学を学び、出産育児退職を期に、「子供との時間を確保しながら責任ある仕事をするには専門性だ！」と考えて行動診療科獣医師として歩む道を決めました。しかし実際、この頃の自分に大きな学びの機会をもたらしたのは「幼稚園や学校・子供がこわい！」と泣いて暴れる娘の存在で、今も本棚は動物行動学以上に発達障害や人の精神科の本が並んでいます。

行動診療一筋の道ではありませんが、「獣医動物行動学」の周りの世界で得られた全ての知識や経験は糧となり、育まれた想像力は、自分を育て、犬猫の行動の本質にも一歩近づけるヒントをくれます。

『生き残る種は、最も強いものでも賢いものでもなく、変化に適応できるものである』by ダーウィン先生。私は強くも賢くも完璧でもない自分が嫌いでしたが、多様性の１ピースとして自分らしく真っ直ぐな視点で認定医として進んでいきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します！

室井　尚子 先生

Jiu 動物行動クリニック

研究会の先生方、こんにちは。この度、獣医行動診療科認定医になりました室井尚子（むろい　しょうこ）と申します。北海道帯広市に Jiu 動物行動クリニックを開業して 4 年になります。出身は神戸ですが、阪神淡路大震災の年に帯広畜産大学に入学して以降、ほとんどの期間をここ十勝で過ごしてきました。日中も氷点下が当たり前のこの時期、「十勝晴れ」の青空をバックに雪化粧をした日高の山々が美しい稜線を浮かび上がらせます。畜大卒の先生方には忘れられない風景でしょう。

卒業後すぐに就職しためむろ動物病院には、米国で群管理を学び、質の高い獣医療を提供するために大動物開業の道を選んだ樋詰俊章院長と、小動物皮膚科診療と若手育成に情熱を燃やし始めた村山信雄獣医師がいました。村山先生は私が行動診療に興味を持っていると知るや、すぐに現札幌動物行動クリニック院長の小田健郎先生に私を引き合わせました。当時の小田先生は開業準備でお忙しい時期であったにも関わらず、行動診療の実際をつぶさに見せ、言葉にして伝えてくれました。何より行動診療のたのしさを私に教えてくれました。

獣医行動診療に関する技量を高める道は、一本道ではないと思います。こうしたことはよく登山に例えられますが、私には山の裾野を歩くイメージがしっくりきます。山 (行動) は常に眼前にあって、悠然とそこに横たわっています。その手前には藪や沼があり、分け入るには十分な装備が必要です。そして道具が揃ってくるにつれ、歩きやすく整備された

道があることにも気づけるようになります。そうやってふらふら歩いていると、藪を綺麗に刈り込みながら進む人（あれは礒見先生だ～）、沼にばしゃばしゃ入って集めた砂金や宝石をにこにこ見せてくれる人（中野先生、1 個ちょうだい）との出会いがあったり、たまに立派な装備を身につけた飼い主さんまで居たりして、歩いていくこと自体が楽しくなってくる…。研修医制度の恩恵を受けながら、私たちはそうやって歩みを続ければいいんだと感じました。地道に整備を続けてくださった先生方、ご同道くださる先生方に感謝しつつ、私はこれからもゆっくりと道草しながら進んでいこうと思います。

会員の窓

会員の日々を切り抜いて自由にご発信をいただく「会員の窓」コーナー。今回は、岸野友祐先生から⇒おかの動物病院／横浜動物歯科　河内由紀先生にバトンが渡りました！

皆さま初めまして！バトンが回ってきてとても驚いているとともに、貴重な機会をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。今回は自己紹介を兼ねて、私の勤務している病院での出来事をお話ししたいと思います。

当院は歯科に特化した、犬猫を対象とした動物病院です。症例の割合は歯周病症例が圧倒的に多く、次いで破折など機材等がないと対応が難しい症例を日々麻酔下で治療していますが、年に数件、攻撃行動による犬歯切断の相談を受ける事があります。そのような中、同様の目的で既に犬歯を切断してきた１歳の猫が来院されました。その猫は仔猫時代に避妊去勢のタイミングで犬歯を４本切断し、歯髄が露出した状態で返されたとのことでした。詳細は割愛させていただきますが、飼い主は子猫の遊びが激しく、飼い主の手足の負傷を相談し提案された結果とのことで、本来適応となる犬歯切断には程遠い状況であったのではないかと推測されます。その猫は結果として残せない犬歯の抜歯・一部は抜髄根管治療で歯を残す選択となりましたが、もちろん本来の健康な歯には戻せず…色々と考えさせられる症例でした。本来、犬歯切断の最も望ましい方法としては生活歯髄切断法、切歯と同じ長さまで犬歯を切断し切断面の歯髄の一部をくり抜き、適切な処理後に蓋をする方法が選択されます。この処置自体煩雑で、出来る施設も限られ、処置後に複数回神経と根尖を麻酔下で確認する必要が出てくること、コスト面から現実的でなく選択されにくいことも多いと思われます。実際、古くから行われている方法としては犬歯切断後に露出した歯髄を焼いて処理もしくはレジンで蓋をする処置ということですが、感染のリスクや単純な蓋としては意味合いが低いこと、歯髄が露出している状態の歯に対しての処置としては不十分と考えられます。避妊手術や去勢手術のように健康な動物に施す処置であれば、適切な処理がされるべきというのは当たり前の事ですが、なかなか現実的に難しい問題がある、ということで学ぶほど深い内容でした。

私にとって印象的な出来事でしたので拙い文章で恐縮ですが、犬歯切断法について再考する機会となれば幸いです。

（河内 由紀）

河内先生、ありがとうございました！
次はあなたにバトンが届くかも…。
バトンが回ってきた際はどうぞ楽しんでお引き受けください。

獣医行動プラクティショナーを紹介

2023年9月に実施されたプラクショナー試験に合格された10名の先生をご紹介します。

動物病院名	動物病院所在地	獣医行動プラクティショナー名（敬称略）
ヴァンケット動物病院　三宿動物医療センター	世田谷区三宿	石井　悠紀子
田中動物病院	綾瀬市深谷中	奥村　菜穂
横須賀三浦どうぶつ医療センター	横須賀市岩戸	岸野　友祐
柄沢どうぶつ病院	藤沢市並木台	武田　繁幸
はるかぜペットクリニック	八街市文違	乙守　智奈美
カンナ動物病院　幕張医院	習志野市芝園	瀬之口　明音
りき動物病院	富士市平垣	西村　友香
ルカ動物医療センター	豊中市少路	髙木　彩夏
ひがし動物病院	堺市東区日置荘北町	森尾（太田）　敦子
清美どうぶつ病院	春日市白水ヶ丘	道岡　清美

事務局からのお知らせ

会員の皆様には、研究会の活動をお支えいただき、誠にありがとうございます。1月1日に発生した能登半島地震では、大きな被害が発生しています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。多くの被災者の方とともに、動物たちも被災していると伺っています。動物たちと飼い主様の不安に寄り添うことも行動診療の役割だと思います。研究会の活動と会員の皆様の活動が、少しでも、被災された皆様と動物たちの役に立てることを願ってやみません。

さて、2月23日（金･祝）は、総会時教育セミナーおよび年次総会が開催されます。総会の成立には正会員の半数以上の出席が必要です。ぜひ教育セミナーと合わせてご参加ください。ご参加が難しい方は委任状の提出をお願いします。メーリングリストにて、出欠確認フォームをお送りさせていただきますので、ご対応お願いいたします。

教育セミナーでは、「これって常同障害と診断していいの？柴犬の尾追い行動 ～こんな症例がきたらどう考える？～」と題し、尾追い行動が見られる柴犬の症例を取り上げ、鑑別診断の考え方等、参加者の皆様から質問を募りながら、ディスカッションを進めていく予定です。アーカイブ配信の予定はございませんので、当日、リアルタイムで奮ってご参加ください。

教育セミナータイムテーブル

- 14:00~16:00　教育セミナー
- 16:00~17:00　総会
- 17:00~18:00　試験説明会
- 18:10~19:30　懇親会